

多、障害者雇用に取り組む企業

【第4回】

朝日新聞大阪本社

新聞報道では障害者雇用の促進について、毎日のように様々な論議がなされていますが、現実には報道機関や新聞社という職域には、障害を持つ社員が少ないのが実状です。そんな状況の中で、本年5月、朝日新聞大阪本社に「内本真奈美さん」という障害を持つ女性が、正社員として採用されました。しかも、「朝日新聞コミュニケーションホール」（愛称「アサコム」）という、新聞社と読者を結ぶ最前線で来訪する読者の対応に当たる、というのがお仕事の内容です。内本さんが、どんな仲間達とお仕事をこのアサコムでこなしているのか、また雇用主である朝日新聞社の今回の採用に至った経過や、採用後の状況など関係者一同にお集まりいただいて、お話をお伺いしました。

彼女を採用して、周りの社員が刺激を受けた

竹中 お忙しいところお邪魔いたします。初めに人事課長の福本さんと、アサコム支配人でいらっしゃる向平さんにお話をお伺いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。まず福本課長から、朝日新聞社全体の障害者雇用の現状などをお教えいただければと思います。

福本さん（以下敬称略） 残念ながらと言いますか、大変申し訳ないことではありますが、朝日新聞社として障害者の雇用は充分な率には達しておりません。しかし社会的責任という観点から、会社全体の厳しいリストラの中であって、障害者雇用だけは推進していかなければ・・・と考え、努力しています。そのような状況の中で、アサコムから障害を持つ女性職員の採用希望が出たことか

お話し

人事課長

福本 芳嗣さん

アサコム支配人

向平 菱さん

読者室（アサコム）室員

河井 滯江さん

読者室（アサコム）室員

内本 真奈美さん

聞き手 竹中 ナミ
写真 木地本昌弥

ら、今回の雇用に至りました。

竹中 すると、アサコムでは最初から障害を持つ職員の配置を希望されたのですか？

向平さん（以下敬称略） はい。事情を説明しますと、アサコムというのは毎日たくさんの読者の方々が朝日新聞社の見学に来られる、その窓口となる職場です。ここでは受付、案内、説明など大半の仕事を女子社員達を中心になって行っています。アサコムは、ベテランの女子社員の活躍によって支えられている、と言っても過言ではありません。このアサコムに見学に来られる個人や団体の方々の中に、障害をお持ちの方が近年大変増えてきました。むろん、現在の社員達で対応できないわけではないのですが、もしここに、ご自身も障害をお持ちで、見学に際してより適切な対応



福本さん（左）と向平さん（右）

ができる方がいれば、もっと素晴らしいのじゃないか、障害を持つ方ならではの体験に基づくアドバイスや感性を活かしてもらえないのじゃないか・・・と考えたのです。

竹中 人事課長として、そういった現場の提案に不安は感じられませんでしたか？

福本 不安がないと言えば嘘になりますが、朝日新聞社として新しいチャレンジだな、という気がしました。でも、結果としてお客様との接点、というか「朝日の顔」ともいえる場所に障害を持つ方に入ってもらって、大変よかったと思っています。

竹中 それは、どのような点からでしょう。

福本 障害を持つ方が配属されたから、というより採用された内本真奈美さんの人柄に負うところが大きいと思いますが、大変積極的に、なおかつ明るく仕事をこなすので、職場の雰囲気がよくなったのを感じます。

竹中 軌道に乗るまで心配されるようなことはありませんでしたか？

向平 自分の中に偏見があったんだなあ、という反省も込めて思うんですが、本人が明るいというのは、周りが障害にこだわらないということに繋がるんですね。採用前は、せっかくここに配属されたのだから、長続きしてもらえよう保護し

てあげなければ、という気持ちが実はあったんです。でも、彼女の明るさや積極性の前では、保護や同情どころか、むしろ周りの社員が刺激を受けて、よい方向へ「内部変化」が見られるほどです。こんな仕事は無理ではないか、雑用は頼めないのじゃないか、などなど・・・杞憂^{きゆう}でしたね。なんでもやってみよう、とチャレンジされてる様子に、社員の方が「こりゃグチ言ってる場合じゃないなあ」と言い出したり（笑）。

竹中 過剰な気遣いや、保護の感覚はかえって失礼、ということでしょうか。

福本 私たち自身、大変よい勉強になったと感じています。そこで、アサコムの仕事のうち、大きなウエイトを占めている「朝日新聞社ビル見学のご案内」という仕事がありますが、これをぜひ彼女にもやってもらおうと思っています。

竹中 見学の人達を引率して、新聞社の仕事を見ていただく、というお仕事ですね？

向平 見学担当をするには朝日新聞社ビル内の配置図や、各部署の仕事内容が頭に入っているということと、拡声器の付いたハンドマイクを抱えてご案内しなければいけない、ということがあって、両腕に障害のある彼女には無理かな、と思ってたんですが、今は課長とも話し合って彼女にぜひ担当してもらおうと計画しています。

竹中 すると、拡声器をかつぐ練習ですか？

向平 いえいえ、とんでもない（笑）。彼女の身体的負担にならない軽さの物を探すか、作るかするという事ですよ。

竹中 なるほど、当然といえば当然ですね（笑）。で、彼女は名実ともに「朝日の顔」になるわけですね。雇用の創出、というのは既存の職場に障害者をはめ込むのではなく、その人のできる部分に考慮し、臨機応変に対応することから始まる、というよい例ですね。どうもお忙しいところ、ありがとうございました。

さて、続いてアサコムに採用された内本真奈美さんと、先輩社員の河井滯江さんのお話をお伺いしたいと思います。河井さん、内本さん、よろしくお願いたします。

お仕事の内容は？

河井さん、内本さん（以下敬称略） こちらこそよろしく。

竹中 内本さん、5月からということですが、職場には慣れましたか？

内本 以前の仕事内容に接客という面で似ているので、仕事そのものには大分慣れました。でも、新聞社独自のセクション名や業界用語が飛び交うので、それにまだまだ慣れていない状態です。

竹中 以前のお仕事は、どのような職場だったのですか？

内本 企業の特例子会社でしたので、障害者が多数働いていましたが、私自身は一般の方々に混じって仕事をしたかったので、アサコムでの仕事はやりがいがあります。

竹中 河井さん、支配人から「ここは女性が仕切ってる職場だ」というようなことをお聞きしましたが、その「仕切ってる先輩」として内本さんに、どんな風な新人研修をされてるんですか？

河井 (笑) そんなに難しい仕事じゃないですし、接客というのは感性の部分の多い仕事なので、研修なんて特別には、やりません。仕切ってるかどうかは別にして、女性には働きやすい環境だと思います。

竹中 失礼なことを言ってすみません (笑)。河井さんからご覧になって、内本さんはどんな後輩ですか？

河井 すでに実務経験をお持ちなので仕事にそつが無く、性格も大変明るくて、こちらが励まされたりしています。力仕事などにも積極的に参加さ



内本さん

れて、周りに気を使わせない配慮のできる方ですね。性格もサラッとされてるのが嬉しいです。

竹中 なかなか高い評価ですね。内本さんは人見知りしない性格なんですか？

内本 本当は恥ずかしがりなんですよ (笑)。でも、早く仕事を覚えたいので、自分なりに一生懸命やっています。

竹中 アサコムでの仕事を簡単に説明していただけますか？

内本 まず、出勤時間が3パターンあります。Aは9:20~17:20、Bは10:00~18:00、Cが11:00~19:00という風に分かれていて、Aは閲覧用の新聞の仕訳とか、OA機器の立ち上げとか、つまりアサコムをオープンするための準備が、出勤してすぐの仕事になります。Bは、すぐ窓口業務につき、Cは、12時にスタートする見学のための準備をします。私はまだ見学の引率はしていませんが、記念撮影などのポラロイドの担当はしています。

竹中 見学というと、先ほど福本課長と支配人が、ぜひ内本さんにも見学担当を、と言っておられましたか・・・

河井 私も内本さんにはぜひ見学担当をしてもらいたいな、と思っています。引率の他に、見学記念にコンピュータで新聞を作る体験、というのもあるんですが、こちらの方はすでに内本さんにも担当してもらっています。これは前日から準備して、当日は文章と写真を入れて出来上がりというものです。内本さんはワープロがばっちりなので、この作業はすぐ覚えてくれました。

内本 データベースの検索もできるようになって楽しいです。

竹中 アサコムのデータベースって、どんなものですか？

河井 1984年以降の、朝日新聞の記事が全部入力されていて、アサコムでは来客が自由に検索できます。ご自分でできないお客様には、担当者が検索のお手伝いをするんです。

竹中 確か、新聞のデータベースというのはCD-ROMで発売されてますよね。結構高価なものだったような・・・

河井 1985年から91年までの52万件の記事を8枚のCDに収め、定価68万円で全国の紀伊國屋書店で販売していますが、アサコムに来ていただければ無料で検索できます。

竹中 これは、おいしい情報ですねえ（笑）。プリントアウトもしていただけますか？

河井 もちろんです。全国各地の地方版もそろっていますので、どうぞアサコムをご活用下さい。

竹中 お客様としては、閲覧や検索、見学の方以外にどんな方々が来られるんですか？

河井 「コミュニケーションホール」という正式名称の通り、ミニコンサートや、落語の定例会なども開催しています。市民の憩いの場としても利用していただきたいと願っています。

竹中 まさに、新聞社と読者の接点という職場ですね。それだけに、いろいろなお客様が来られるので、中には心ない方もおられるのじゃないですか？

河井 相当難しそうな場合は男性の上司に繋がります（笑）。内本さんに対しても、傷つけるような場面がないように、上司は案じていたようですが・・・

内本 幸い、よいお客さんばかりです。でも、心ない発言というのは通勤電車の中とか、日常的にいくらでも体験してるので、もしそんな方が来られても平気ですよ（笑）。何しろ、目立つ障害ですからいろいろなことを言われます。「悪いことしたら、あなるよ」なんて子どもに言い聞かせるお母さんとか・・・慣れることは無いけれど、無視するようにしています。

河井 内本さんは堂々としてるところが、すごいですね。



河井さん

宝塚歌劇でリフレッシュ

竹中 内本さんの障害の原因はなんですか？構わなければ聞かせて下さい。

内本 障害の原因は、母が妊娠中に飲んだ薬だと聞いています。

竹中 内本さんとお母さんとの間で、葛藤などかなりあったでしょうね。

内本 障害が親子喧嘩のタネになったことなどは、ほとんどありません。母も、できるだけ普通の生活をするように育ててくれました。高校までずっと普通校だったので、健常者との付き合いが多く、障害者中心の社会に入ったのは前の職場が初めてでしたが、そこで初めて「障害者独特の考え方、感じ方」というのがあると知りました。

竹中 それはどのようなことでしょうか？

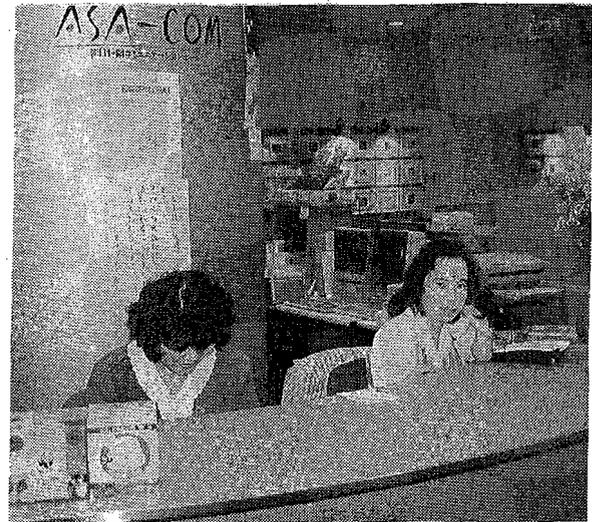
内本さん できることを精一杯しよう、というより障害があるから許してもらえ、という考え方があるということです。同じ種類の障害者仲間と仲がよいのは構わないけど、そのサークルでの団結を職場にまで持ち込む、というような「仲良しクラブ」の世界観がありました。これは、障害者と健常者の溝を自分から広げているのと同じだと思います。

竹中 大変厳しいご意見ですが、私も同感です。特に、障害を持つ人の職域を広げることが望まれる現状では、社会に出られた一人一人の障害者がバイオニアとしての役割も担うわけでもんね。

河井 内本さんは、すでに自分に対する厳しさを持っているので、それ以上無理をしないで、自然体でお仕事をしてほしいと思います。

竹中 お話を柔らかめに戻しましょう（笑）。内本さんは、休日とはどんな風に過ごされるんですか？

内本 （下を向いて、モジモジ・・・）実は・・・私、宝塚歌劇・月組の大ファンなんです。それで休日は、よく観劇に行っています。



お仕事の様子

竹中 宝塚歌劇ですか、それはよい気分転換でしょうね。

内本 はい、夢があって素敵です。歌劇を観た後は、活力がわいてくるんです。

竹中 歌劇で気分転換。で、またバリバリ働く。上手にご自分の生活を組み立てていらっしゃるんですね。どうも、今日は皆さん、長時間ありがとうございました。内本さんのアサコムでの活躍を楽しみにしています。朝日新聞社とアサコムのますますのご発展をお祈りして、今日の対談を終わらせていただきたいと思います。皆様、本当にありがとうございました。

障害を見事に自分の個性にまで高めて働いておられる内本さん。お仕事の話をする時のキリッとした表情が、最後の歌劇のお話の場面では少し恥ずかしそうに楽しそうに変化したのが印象的でした。朝日新聞社が読者との接点ともいえる職場に、障害を持つ女性を正社員として雇用されたことは、日本の報道機関の現状としては、やはり英断と言っているのではないかと思います。社会の**ぼくたく**木鐸たる使命を持つマスコミに、なお一層、障害を持つ人達が進出し、活躍することを願ってアサコムを後にしました。

朝日新聞社の概要

資本金 6億5000万円
年間売上 約3,960億円
*1992年4月～1993年3月

創刊日

大阪本社 1879 (明治12) 年 1月 25日
東京本社 1888 (明治21) 年 7月 10日
西部本社 1935 (昭和10) 年 2月 11日
名古屋本社 1935 (昭和10) 年 11月 25日
北海道支社 1959 (昭和34) 年 6月 1日

従業員数

大阪本社 2,128 (119) 人
東京本社 4,364 (345) 人
西部本社 987 (45) 人
名古屋本社 661 (36) 人
北海道支社 232 (5) 人
合計 8,732 (550) 人

*1993年4月1日現在

* () 内は女性で内数

販売部数

朝刊 8,218,165部
夕刊 4,609,481部

*1992年7月～12月ABC平均部数

朝日新聞社綱領 (1952年制定)

- 一、不偏不党の地に立って言論の自由を貫き、民主国家の完成と世界平和の確立に寄与す。
- 一、正義人道に基づいて国民の幸福に献身し、一切の不法と暴力を排して腐敗と闘う。
- 一、真実を公平迅速に報道し、評論は進歩的精神を持してその中正を期す。
- 一、常に寛容の心を忘れず、品位と責任を重んじ、清新にして重厚の風をたつとぶ。

コンピュータセミナーの開催

プロップでは毎週2回、障害を持つ人を対象にした初・中級コンピュータ・セミナーを開催しています。

*毎週水曜日 PM 6:30～9:00 MACセミナー
(大阪ボランティア協会と月1回はアップルセンター肥後橋で開催)

*毎週金曜日 PM 6:30～9:00 98セミナー
(京橋OBPにある日本電気関西支社にて開催)

いずれもコンピュータ好きのボランティアさんを募集中です。現在、どちらのコースも障害を持つ方約10名づつが受講されています。セミナー責任者は、MACセミナーは榊原淳、98セミナーは鈴木重昭です。

コンピュータセミナー・ボランティア募集

障害を持つ受講生とコンピュータ好きの社会人 (及び学生さん) との出会いの場が、このセミナーです。どちらのコースも、ユーザーグループの「のり」で、楽しくわいわいやっています。活動については「見学してから考えるよ」という方も大歓迎! お気軽に会場にお越し下さい。